



(写真は1月開催「イクボス宣言」より)

働きやすい平川市を目指して！ 平川市長をはじめ全幹部職員41名が『イクボス宣言』

「イクボス」とは、職場で共に働く部下・スタッフの仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことです。

平川市は仕事と生活を両立し、育児を行う部下らを支援する管理職「イクボス」を目指そうと、1月5日(木)に生涯学習センターにてセミナーを開き、長尾市長をはじめとする全幹部職員41名が「イクボス宣言」に署名しました。

セミナーの講師を務めたNPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事である安藤哲也氏は、「イクボスの“イク”は育児のみならず部下や組織を育てるという意味もある。“ボス”自らが生活を充実させ、考えを変えて部下を支えて欲しい。部下を変えたければまずは自分から。」とアドバイスしていました。

長尾市長は、「働きやすい職場は個人と組織の生産性を高め、市民サービス向上につながる。市が『イクボス宣言』したことで、市内企業にも「イクボス」が広まることを期待したい。」と話していました。

「きあら(chiara)」はイタリア語で「光り輝くもの」「よろこびをもたらすもの」を意味します。平川市男女共同参画推進プランの基本理念である「互いに認め、支えあう、男女(ひと)がきらめく平川市」のとおり、輝く未来を見つめながら性別にかかわらず一人ひとりがお互いを認め、自分らしさを十分に生かせる平川市をめざしたいという願いを込めています。

私たち『奥入瀬サミット2016』に参加してきました！

平成28年9月に十和田市で「奥入瀬サミット」が開催され、平川市からは、私たち、赤平望と白川祥子が参加しました。サミットの概要と参加した感想をご紹介します。



詳細は奥入瀬サミットホームページをごらんください。
www.oirase-summit.com

赤平 望(向陽)

この奥入瀬サミットは“働く女性のためのプレミアムセミナー”という肩書通り、星野リゾート奥入瀬渓流ホテルというプレミアムな場所で行われ、やる気に満ち溢れた素敵な女性がたくさん集まっていました。セミナーでの講師陣のお話はもちろん、休憩中や交流会においても参加者や講師の方々と様々なお話ができて、大変勉強になり、とても楽しく過ごせました。私は特に断捨離のやましたひでこ先生のお話を楽しみにしていたのですが、やました先生もトーク相手の対馬ルリ子先生もとてもパワフルで、そのトークの熱量に圧倒されました。

この2日間をとおして、講演を聞いたり、様々な経験・志がある方々との交流を通して、今後の自分の働き方や人生について考える大変いい機会となりました。このような機会を作ってください、本当にありがとうございました。

今回「奥入瀬サミット」に参加したお二人に記事を作ってくださいました。サミットに参加したことで、今後もきらきらと輝いてお仕事がんばっていただきたいと思います。

平川市では奥入瀬サミットや日本女性会議へ参加される市民の方へ費用の一部を助成しています。ご興味のある方は、下記の連絡先までお問い合わせください。(総務課行政改革係 担当者)



【主なプログラム】

9月10日(土)

◎スペシャルトーク 夏木マリさん

◎トークセッション

小川理子さん(パナソニック役員/ジャズピアニスト)

折笠雅子さん(サントリーホールディングス)

◎NPO法人GEWELプレゼンツミニトーク

小嶋美代子さん(日立ソリューションズダイバーシティ

センター推進センタ長/NPO法人GEWEL理事)

9月11日(日)

◎【ヘルス&ビューティーセッション】

対馬ルリ子さん(女性ライフクリニック銀座院長)

小宮仁奈子さん(三越恵比寿店長)

◎ヘルス&ビューティーセッション

対馬ルリ子さん(女性ライフクリニック銀座院長)

やましたひでこさん(クラター・コンサルタント)

白川 祥子(大坊)

今回、参加させていただき上記のようなプログラムで普段、経験できない様な女性の華やかなサミットでした。印象に残った事は、管理職女性の講話してくださった方々に共通していた点で、まだまだ職場で、女性に偏見のある中で、「諦めなかった」という事でした。この言葉が自分自身を振り返り、無理だと思い諦めていた事に対して心に響きました。この体験を生かし、自分を見つめ直す励みにしたいと思います。

女性のセミナーに参加できる機会をくださった、平川市はとても素晴らしいと思います。来年も募集がありましたら、是非、応募して欲しいと思います。

平成28年度あおもりウィメンズアカデミー 「市長を囲んで地域丸わかり」

『あおもりウィメンズアカデミー』は、青森県男女共同参画センターが主催する仕事や地域で活動の幅を広げたい、リーダーとして参画したい女性を応援する学習の場です。10月16日(日)に平川市文化センターで長尾市長と受講生との懇談会が開催され、男女共同参画に関する現状や地域課題などについて意見交換がありましたので、その概要を紹介いたします。



市長が男女共同参画について 思い浮かべるものは何ですか。

市長 「イクメン」が思い浮かびます。むつ市長が育児を取得したことがありました。女性のみならず男性も一緒に「子育て」するという意識の変化を感じています。「男女共同参画社会」の理念としては、男女の性の区別なく、それぞれの個性・能力を発揮して社会の役に立ってほしいということですので、これからも男女共同参画は大事になっていくと思います。

私は「女性が元気になれば地域も元気になれる」と思っています。今後も市の審議会等への女性の参画を推進していきますが、女性の方々にも意識変革をしていただきたいと思っています。このウィメンズアカデミーのような講座に参加する女性が増えていただければ、平川市もさらに元気になると思います。

平川市の男女共同参画の取組 状況についてお聞かせください。

市長 市の審議会等への女性委員の登用率については、目標を30%以上としています。教育委員など30%以上のもありますが、全体で26.5%であり、目標を達成していません。女性の参画推進のため、公募枠を設けるなど、募集方法を工夫したいと思っています。

市職員については、平成27年度に初めて部長職に女性2名を登用しました。能力のある職員は今後も登用していきたいです。広報・啓発事業については、情報誌「さあらひらかわ」を発行し、男女共同参画に関する制度を紹介しています。また、近隣市町村の各種団体や市町村職員と連携し、「DV対策」「避難所づくり」「子育て支援」などをテーマとした講演会を開催しています。「日本女性

会議」や「奥入瀬サミット」へ市民の方々に参加していただいています。その他、第2子以降保育料無料化による子育て支援、各種健診の実施による健康づくりの推進といった取組を実施しています。本年度末までに「第3次平川市男女共同参画推進プラン」を策定する予定です。

女性活躍推進と言われる現状 のなかで、市の施策として、ど のようなことに取り組んでい けばよいとお考えでしょうか。

市長 国は女性の力を「我が国最大の潜在力」と成長戦略の中核に位置付け、平成27年には、女性の職業生活における活躍を推進し、豊かで活力ある社会の実現を図るため、女性活躍推進法が成立しました。

今年度、県でも「第4次あおもり男女共同参画プラン21」を策定中で「女性の人材育成と能力開発」、「ワーク・ライフ・バランスの推進」など、女性の活躍に関する取組みを位置付けると伺っています。

市も講演会や日本女性会議等への参加拡大による「女性人財の育成」、子育て支援の充実や市内企業への育児・介護休業等が取得しやすい環境づくりの推進による

「ワーク・ライフ・バランスの推進」を進めていきます。

全国では毎年、10万人の人が介護離職をしています。平川市の現状と、このことについて市長の考えをお聞かせください。

市長 市では8月現在介護が必要とされた方は約2千人おり、うち施設入所者は約6百人いますので、介護離職者がいる可能性はあります。

厚生労働省では、介護をしながら働く方が介護休業を取得しやすくなるよう、8月から介護休業給付金の給付率を引き上げるなど制



度改正しました。また、平成29年1月から93日の休業期間を分割で取得でき、また、介護休業を半日単位で取得できるようになります。

これらの制度を活用しながら、企業では介護休業等を取得しやすい環境づくりが必要であり、また、家庭では介護サービスを利用しながら家族みんなで協力し合うことが必要と考えます。

ただ現実には非常に難しく、介護は社会保障制度改革とともに進めていく必要があると考えます。

市職員の休暇取得率向上のため、 取組んでいるは何ですか。

市長 市は『平川市職員仕事・子育て応援プラン』を策定し、職員のワーク・ライフ・バランスが一層充実し、仕事と家庭を両立するための本人の意思を尊重し、能力を十分発揮できるように、様々な取組みを行っています。出産を控えた女性職員には健康維持や出産のための休暇、男性職員には育児休業や配偶者出産休暇の取得率向上のため、取得しやすい職場づくりを努めています。

市はワーク・ライフ・バランスの推進のため「イクボス宣言」を行う予定です。市が率先して「イクボス宣言」を行うことにより、市内企業への波及を期待しています。

仕事と家庭生活を両立させながら、安心して働ける職場では、一人ひとりの職員の仕事に対する意欲がより高まり、生き生きと働くことができます。

お互い支えあいながらよりよい職場づくりを進め、職場のパワーアップ、そして住民サービスの更なる向上につなげていきたいと考えています。

女性が気兼ねなく集まり、交 流できる場が欲しいです。お悩 み相談や講座を開催できるよ う、公共施設の空きスペースを 貸してもらえませんか。

市長 平成32年度までに新庁舎を建設する予定で、尾上庁舎に空きスペースが生じる可能性があります。ご提案の内容について活用は可能と考えられますが、運営方法など協議する必要があります。

市で「イクボス宣言」するよう ですが、民間会社の管理職に も「イクボス宣言」を働きかけ てください。

市長 市のみならず、市内企業が「イクボス宣言」を行っていただきたいと思えます。毎年企業と意見交換していますので、働きかけしていきたいと思えます。

【市長からのエール】

市としては、これからも「男女共同参画社会」の推進のため、市を挙げて努力して参りたいと思っています。

皆さんのようにアカデミー等で学ぶ方々が多くなれば、市の各種審議会等へ参画する女性が増えることにもつながると思います。

女性のチカラは非常に大きいと思えます。女性のみならず男性も一緒にスキルアップしながら、平川市をさらに元気にしていけたらと思っています。

皆さんの今後の活躍を期待しています。

市長 職員の意識改革が重要であり、育児休業について理解してもらうことが大切です。また、合併してから職員削減をしてきました。育児等を取得した場合、どのようにフォローしていくかが課題となっています。

再任用制度を活用するなど、対策を講ずる必要があると考えています。

男性職員の育児休業取得につ いて、取得予定の職員とそれ以 外の職員との間に温度差があ ると思うが、解消方法は考 えていますか。